

PHILIPS

Healthcare

超音波診断装置



第11回 Philips 超音波診断装置 Webセミナー 「体表エコーがおこすEVTのパラダイムシフト」

セッション1

エコーガイドEVTの革命 –xPlane エコーガイド–

演者：山内 陽平 先生

(倉敷中央病院 臨床検査技術部 超音波生理検査室)

セッション2

下肢動脈EVTにおける体表エコーの役割と有用性

演者：平野 敬典 先生

(豊橋ハートセンター 循環器内科)

■日時

2021年6月15日 (火) 19:00-20:00

■お申込み方法

こちらの[リンク](https://v2.nex-pro.com/campaign/24519/apply)か、または右のQRコードよりお申込みください。
<https://v2.nex-pro.com/campaign/24519/apply>

ご参加登録を頂きますと、当日ご参加いただけない場合にも、オンデマンド配信開始時にご案内が届きご視聴が可能になります。



第11回 Philips超音波診断装置Webセミナー 「体表エコーがおこすEVTのパラダイムシフト」

セッション1

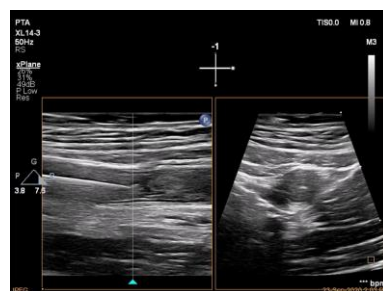
エコーガイドEVTの革命 –xPlane エコーガイド–

演者 : 山内 陽平 先生

(倉敷中央病院 臨床検査技術部 超音波生理検査室)

内容紹介 :

xPlane エコーガイドの最大のメリットはlong axisとshort axisが同時にリアルタイムで描出ができることです。xPlaneはガイドワイヤー先端の空間的な位置認識ができるため狙いを定めて方向変換でき、ガイドワイヤーがずれても早急に修正し可能な限り真腔を捉えることができます。そして従来のエコーガイドと大きな違いは“血管”ではなく“ガイドワイヤー”を追従していくことです。先端を常に確認しながらできるため術者とエコー技師との共有度が高く、また透視での確認が圧倒的に減少するため被曝量や時間の減少にも繋がります。今回はxPlaneを用いたEVTでのエコーガイドについてお話しさせていただきます。



セッション2

下肢動脈EVTにおける体表エコーの役割と有用性

演者 : 平野 敬典 先生

(豊橋ハートセンター 循環器内科)

内容紹介 :

体表エコーの最大の特徴は非侵襲的に使用できることであり、そのことから広く普及されている検査機器の1つである。我々が血管内治療 (Endovascular treatment : EVT) を行う下肢動脈は、体表近くを走行しているため、体表エコーで比較的容易に描出できる。

この特徴を生かし近年では下肢動脈に対するEVTに広く使用されている。

EVTを行ううえで最大の壁となるのは慢性完全閉塞 (Chronic Total Occlusion : CTO) である。CTOに対するEVTにおいて、いかに合併症をきたさず安全に手技を終えられるか、また慢性期成績の改善に繋がれるかが重要であり、そのためにはガイドワイヤーをいかに閉塞血管の中心近くに通せるかが鍵となる。その手助けをできるデバイスこそが体表エコーである。今回はEVTにおける体表エコーの使用法、その役割と重要性についてお話しさせていただきます。

製造販売業者

株式会社フィリップス・ジャパン

〒108-8507 東京都港区港南2-13-37フィリップスビル

お客様窓口 0120-556-494

03-3740-3213

受付時間 9:00~18:00

(土・日・祝祭日・年末年始を除く)

www.philips.co.jp/healthcare

